

(参考) 観光文化スポーツ部

事業名	アンテナショップ運営事業			担 当	秋田うまいもの販売課 調整・食品振興班	
事業年度	平成23～	事業主体	県	当初予算額	64,173 千円	
事業目的	東京と福岡のアンテナショップの情報発信機能の充実や県産品の販売拡大を図るため、店舗を利用したイベントや商談会を開催する。			財 源	一 般	40,330 千円
				内 訳	諸収入	23,843 千円
実施内容	1 東京アンテナショップ運営事業					
	<p>(1) 店舗賃料 (53,722千円)  店舗賃料 53,722千円 (4～9月：@42,000円/坪×97.79坪×1.08 (一円未満切捨) ×6ヵ月)  (@42,000円/坪×97.79坪×1.10 (一円未満切捨) ×6ヵ月) 10月～</p> <p>(2) アンテナショップの運営強化 (2,800千円)  ①運営協議会への参画 (毎月1回)  ②衛生管理講習会 (年4回 (6月、9月、11月、2月))  ③店舗改善講習会 (年2回)</p> <p>(3) 店舗及び店舗前広場を活用した情報の受発信の強化 (5,355千円)  ① 客層の拡大や来場者を増大させるためのイベントの開催</p> <p>ア 物産・観光PRイベント  ・収穫祭 (10月中旬 主な内容：新米食べ比べ、きりたんぼ鍋醤油・みそ食べ比べ 等)  ・冬祭り (1月上旬 主な内容：発酵ソーリズムと連携した発酵食御前の提供 等)  ・周年祭 (3月9～10日 主な内容：いぶりがっこ食べ比べ 等)</p> <p>イ 京急あきたフェア関連イベント (京急女子会)  (10月上旬 70名程度 主な内容：地域の食材を活用したメニューや地元酒蔵の日本酒の提供など)</p> <p>ウ 市町村等と連携した食のPRイベント (あきたファン感謝ナイト)  ア 協力市町村：鹿角市 (予定)</p> <p>エ 外国人観光客等獲得企画イベント (1回・10～11月 日本酒と食の予約ディナーショー)</p> <p>オ 外国人観光客Week企画イベント (1回・11月 ハロウィンウィーク)  都内在住の大使館、外資系企業の外国人を集めたイベントによる情報発信 (Tokyoweekenderに委託)</p> <p>カ 外国人受入体制整備 翻訳機の導入 (5台)</p> <p>② 店舗サイン掲出 1,962千円 (@150,000円×12ヶ月×1.08) (@150,000円×12ヶ月×1.10)  ③ パンフレット購入 255千円 (日本語版 1,500部・外国語版 (英語) 1,500部)</p> <p>(4) 店舗維持・修繕 (1,303千円)  ①店舗修繕費  ②冷凍ショーケース購入及び処分費</p>					
	2 福岡アンテナショップ運営事業				992千円	
	(1) 日本酒を核とした販売拡大イベントの開催					
	①日本酒頒布会制度を立ち上げ試飲会による頒布会員獲得 (6月上旬、9月中旬、11月中旬)					
	②あきたフェアの開催 (12月上旬の1週間)、期間中はマネキン (販売促進員) を配置して試食試飲提供を行う。					
	(2) 外販促進のための商談会の実施 (店舗内 1回・7月 県内事業者2～3社程度)					

事業名	あきたスマイルケア食研究開発事業【企業版ふるさと納税】			担 当	秋田うまいもの販売課 調整・食品振興班	
事業年度	平成29～31	事業主体	県	当初予算額	2,000 千円	
事業目的	高齢化の進行に伴い近年ニーズが高まっている介護食品分野において、県産農産物を活用した新たな商品を開発することにより、県内食品産業の振興を図る。			財 源	寄付金	1,000 千円
				内 訳	一 般	1,000 千円
実施内容	総合食品研究センターの食品加工技術を活用し、県内企業との連携により介護食品「スマイルケア食」を開発し、それらの介護食市場等への販路開拓を行う。					
	1 あきたスマイルケア食研究開発事業				767千円	
	(1) スマイルケア食「青」マークの商品開発並びに利用許諾件数の拡大 (5件程度)					
	(2) スマイルケア食「黄」マーク商品の開発と商品化支援 (1件程度)					
	(3) 誤嚥予防素材 (県産ネギエキス粉末) の開発と成果の技術移転					
	(4) 離乳食・幼児食へのスマイルケア食の展開と商品開発支援					
	2 あきたスマイルケア食販路開拓事業				1,233千円	
	(1) 業務用スマイルケア食の商品開発支援 評価用サンプルの試験製造と評価のリサーチ					
	(2) 県内小売業者と連携したスマイルケア食商品の販路拡大 店舗配布用の卓上のぼり等の制作 (卓上のぼり：100個、商品紹介リーフレット：5,000部 (A6版) PRブース用腰巻き：20枚)					

(参考)

県内の「スマイルケア食」マーク利用許諾商品の事例（低栄養予防食品）

- ・あぐりこまち(株)【秋田市】  
あずきがゆ（平成28年11月許諾）、玄米粉フルーツかゆほか7種（平成30年2月許諾）  
いものこ汁（平成30年8月許諾）
- ・(株)幸栄丸【にかほ市】  
豚バラ角煮（4種類）（平成29年6～7月許諾）
- ・(株)田沼屋慶吉【秋田市】  
比内地鶏の煮たまご（平成29年6月許諾）※OEMで紀伊國屋も取得
- ・(有)鈴和商店【秋田市】  
秋田県産大豆 らくらく蒸し豆2種類（大豆、ひよこ豆）（平成30年1月・4月許諾）
- ・(株)白神屋【能代市】  
豚なんこつキーマカレー、豚なんこつハンバーグ、豚極（平成30年2月許諾）
- ・秋田県立男鹿海洋高等学校【男鹿市】  
さば水煮缶詰、さば味噌煮缶詰、さば油漬缶詰、揚げかまぼこ、蒸しかまぼこ（平成30年2月許諾）
- ・秋田いなふく米菓(株)【秋田市】  
あられんこ（しょつつる味）巾着タイプ、あられんこ（しょつつる味）スタンドバックタイプ（平成30年3月許諾）
- ・(株)グランドパレス川端【大仙市】  
義平福ビーフカレー、羽後和牛ビーフカレー、秋田県産ポークカレー（平成30年4月許諾）
- ・みちのくアトリウムプラン【秋田市】  
、(てん)平君（平成30年8月許諾）
- ・心味（シンセイ科学）【にかほ市】  
秋田どじょう甘露煮、秋田どじょうつくだ煮（平成30年10月許諾）

事業名	秋田の日本酒プロジェクト推進事業			担 当	秋田うまいもの販売課 調整・食品振興班						
事業年度	平成29～31	事業主体	県	当初予算額	15,071千円						
事業目的	本県酒造業の振興を図るため、吟醸酒など高品質な酒づくりへの転換を図る蔵元に対し、冷蔵設備の導入を支援する。			財源内訳	<table border="1"> <tr> <td>国庫</td> <td>7,512千円</td> </tr> <tr> <td>諸収入</td> <td>7,559千円</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td></td> </tr> </table>	国庫	7,512千円	諸収入	7,559千円	一般	
国庫	7,512千円										
諸収入	7,559千円										
一般											
実施内容	<p>1 高品質清酒製造に向けた酒蔵体質強化事業 15,071千円</p> <p>市場のニーズに対応した風味、個性の際立つ高品質な酒づくりへの転換に必要な設備導入を支援する。 （支援の内容）</p> <p>(1) 補助率 1/2以内 (2) 採択件数 5件程度（補助上限額3,000千円） (3) 平成31年度実施希望蔵元 鈴木酒造店（秀よし）、秋田酒造（秋田晴）、佐藤酒造店（出羽の富士）、福乃友酒造（福乃友） 備前酒造本店（大納川）、両関酒造（両関）</p> <p>(4) 対象者 高品質かつ収益性の高い純米吟醸酒等に転換する計画を持つ県内の酒造メーカー (5) 対象設備 低温タンクの新規導入、既存タンクの低温タンクへの改造、プレハブ冷蔵庫の新規導入 既存貯蔵庫を活用した冷凍機導入等のいずれか</p> <p>(6) 公募 平成31年5月末 (7) 審査採択 6月中に審査、採択（交付決定） ※31BY（秋からの醸造年度）から活用</p> <p>(8) 平成30年度採択事業者 5社 秋田酒類製造（高清水）、山本（白瀑）、日の丸醸造（まんさくの花）、 天寿酒造（鳥海山）、秋田銘醸（爛漫）</p> <p>(9) 平成29年度採択事業者 6社 浅舞酒造（天の戸）、栗林酒造店（春霞）、新政酒造、阿櫻酒造、 那波商店（銀鱗）、齋彌酒造（雪の茅舎）</p>										

事業名	あきたコメ活プロジェクト推進事業【地方創生推進交付金】			担 当	秋田うまいもの販売課 調整・食品振興班						
事業年度	平成31～32	事業主体	県	当初予算額	10,696千円						
事業目的	米菓をはじめとする米加工品について、関係機関による協議会を開催し、商品開発や販路拡大の可能性を探るとともに、県内の米加工商品に対する販路開拓を支援することにより、米加工品を重点分野として育成し、本県食品産業の振興と県産米の利用促進を図る。			財源内訳	<table border="1"> <tr> <td>国庫</td> <td>4,891千円</td> </tr> <tr> <td>諸収入</td> <td>6千円</td> </tr> <tr> <td>一般</td> <td>5,799千円</td> </tr> </table>	国庫	4,891千円	諸収入	6千円	一般	5,799千円
国庫	4,891千円										
諸収入	6千円										
一般	5,799千円										
実施内容	<p>1 協議会・ワーキンググループの開催 268千円</p> <p>(1) 秋田米加工利用促進協議会の開催 ①開催時期 年3回（H31年5月、10月、H32年1月） ②構成 米加工関連事業者、小売り事業者、秋田県中小企業団体中央会、総合食品研究センター 庁内関係各課、秋田うまいもの販売課（事務局）</p>										

- ③協議内容 原料米となる秋田米の確保から商品開発、販路開拓、さらには取組のロードマップ等を協議  
 (2) ワーキンググループの開催  
 開催時期 随時 (H31年4月～H32年3月)
- 2 技術移転促進対策 3,443千円  
 (1) 秋田米利用加工を担う企業の商品開発を総食研と協同で実施し、開発した商品オリジナル技術を移転  
 (2) あきた農商工応援ファンド事業や総食研との共同研究、委託研究を活用して商品開発を支援  
 (3) マッチングスタッフによる総食研オリジナル技術を県内企業に移転するための支援や移転先企業のデータベース化  
 (4) マッチングスタッフ1名(公募により選定)、雇用期間:H31～32、配置先:総合食品研究センター
- 3 開発商品のブランディング対策 2,588千円  
 (1) 専門家派遣業務(秋田県中小企業団体中央会へ委託)  
 5事業者程度を対象に、パッケージ改良やマーケット分析分野の専門家を派遣し売れる商品づくりを徹底  
 (2) 米加工品試作開発業務(総合食品研究センターへ再配当)  
 試作品を委託製造し、消費者モニターや分析等を総食研と事業者が連携し実施(8事業者10商品程度)  
 (3) 蔵付き味噌プロモーション業務(秋田県味噌醤油工業協同組合へ委託)  
 ・「蔵付き味噌」を活用して製造を行う味噌を県内量販店や県外イベント等で試食提供を行いPR  
 ・「蔵付き味噌」のPRに必要なミニポップ、リーフレット等の販促物の制作  
 ・「蔵付き味噌」を使用した菓子、ラーメンや稲庭うどん等の麺類、だまこ等の二次加工品の開発を促進  
 (4) 秋田米使用商品ロゴ制作業務(コンペにて委託事業者を選定)  
 「秋田県産米使用」をアピールするため、商品貼付用のロゴマークを制作するとともに、ロゴマークを使用したのぼりやスウィングポップ等の販促物を制作  
 (のぼり:20枚、卓上ミニのぼり:100個、スウィングポップ:500枚、PRブース用腰巻き:10枚)
- 4 開発商品の販路開拓 4,397千円  
 開発商品の販路を開拓するため、FOODEX JAPAN 2019やスーパーマーケットトレードショーを対象に、延べ10～12事業者の出店を支援  
 (1) スーパーマーケットトレードショー  
 ①委託先 秋田県中小企業団体中央会  
 ②開催時期 H32年2月  
 ③開催場所 幕張メッセ(予定)  
 ④ブース数 2コマ  
 (2) FOODEX JAPAN 2019  
 ①委託先 秋田県中小企業団体中央会  
 ②開催時期 H32年3月  
 ③開催場所 幕張メッセ(予定)  
 ④ブース数 2コマ ※秋田銀行、秋田県信用保証協会などと秋田県ブースに合同出展

事業名	「秋田犬の里」首都圏プロモーション事業 【地方創生推進交付金活用事業】		担当	秋田うまいもの販売課 まるごと売込み班	
事業年度	平成31～32	事業主体	県	当初予算額	7,361千円
事業目的	国内外において高い知名度を誇る秋田犬を切り口とし、本県の食や観光を一体的にPRするイベントを開催することで、本県の認知度を向上し、県産品の販路拡大を図るとともに、秋田のファン・リピーターづくりや観光誘客を図る。		財	国庫	3,680千円
			源	一般	3,681千円
実施内容	1 AKITAワンダフルフェス開催事業 6,098千円 国内外で人気の高い「秋田犬」の知名度を活用した食と観光のイベントを首都圏で開催することにより、「秋田犬の里」としての本県の知名度向上及び観光誘客を図る。 (1) 開催時期 平成32年1月11日(土)～12日(日) (2) 開催場所 代々木公園 (3) 内容 秋田犬をはじめ、発酵食等本県の特色ある食文化や観光等の魅力を一体的にPRするイベントを開催し、観光誘客を図る。 (4) 委託先等 企画提案競技方式により選定 (5) 委託内容 AKITAワンダフルフェス企画・運営業務				
	2 あきたワンダフルバザール開催事業 1,263千円 (1) 秋田ワンダフルバザールin大宮(671千円) 大宮駅の乗降客を対象に、JR東日本秋田支社と連携して県産品や観光を一体的にPRし、秋田の認知度向上や県産品の販路拡大、観光誘客を図る。 ①開催時期 平成31年6月上旬又は10月上旬(1回) ②開催場所 JR大宮駅中央改札口広場 ③内容 県産品の販売(10ブース)、観光PR(5ブース) (2) 秋田ワンダフルバザールあきた散歩(592千円) 県内の観光客やクルーズ船の観光客を対象に、JR東日本秋田支社と連携して観光PRと県産品の販売を行い、リピート客の獲得を目指す。 ①開催時期 平成31年5月上旬～12月(2回程度) ②開催場所 秋田駅東西連絡自由通路(ぼぼろーど) ③内容 県産品の販売(10ブース)、観光PR(2ブース)				

事業名	秋田の食ビジネスチャンス拡大事業			担 当	秋田うまいもの販売課 まるごと売込み班
事業年度	平成28～30	事業主体	県	当初予算額	12,767 千円
事業目的	県産品の販路拡大を図るため、商談会の開催や民間事業者との連携により県内食品事業者等への販促機会を提供し、販売力強化や商品開発を推進するほか、民間鉄道会社と連携した商品づくりや販路拡大、お土産の開発を促進する。			財 源	一 般 12,767 千円
実施内容	<p>1 県産品ビジネスチャンス拡大事業 8,454千円  「県産食材マッチング商談会」に加え、中食や外食をターゲットに業務用食材を提案するマッチングを展開する。  (1) 県産食材マッチング商談会 (6,952千円)  ①開催時期 平成31年7月  ②開催場所 秋田テルサ(秋田市)  ③出展社数 110社(出展料15,000円/社、委託費に加算)  ④出展ブース数 120社(事業者ブース110ブース、他10ブース)  ⑤来場者数 500名(県内外の卸・小売等バイヤー、ホテル飲食店関係)  ⑥委託先 企画提案競技方式により選定  ⑦委託内容 商談会の企画・運営</p> <p>(2) 中食・外食用食材販路拡大事業 (1,502千円)  ①開催時期 平成31年5月～平成32年1月(3回程度)  ②開催場所 あきた美彩館(東京)  ③参加事業者数 延べ3社程度(ハサップ等取得事業者を想定)  ④方 法 対象となる首都圏の企業や飲食店チェーン店をピックアップし、P B的な業務用商材の販売が可能な県内事業者とマッチングを行う。</p> <p>2 あきた食のチャンピオンシップ開催事業 2,644千円  「あきた食のチャンピオンシップ2019(第39回特産品開発コンクール)」を開催し、新たな秋田の顔となる商品を選考し、受賞商品の販路拡大を図る。  (1) 募集期間 平成31年4月～6月  (2) 審査日:平成31年7月  (3) 受賞内訳  ・加工品部門又は菓子・飲料部門 金賞1点  ・加工品部門 銀賞2点、奨励賞1点  ・菓子・飲料部門 銀賞1点、奨励賞1点  ・工芸部門 金賞1点、銀賞1点、奨励賞1点</p> <p>3 秋田の食応援企業開拓事業 1,699千円  連携協定企業の締結先企業など、本県と関わりの深い県外企業や都市型高齢者関連施設等を対象に県産品の販売や社員・社用ギフトの売込み、観光PR等を実施し、新たなチャネルへの販路開拓や秋田ファンの拡大を図り観光誘客につなげる。  (1) 対象企業数 4社(POLA、ヒトワケアサービス(都内)、日本生命など)  (2) 内 容 企業物産展の開催や試食試飲付き販売会などの企画提案の開催及び観光PR、ツアー商品の紹介  (3) 開催時期 平成31年6月から順次  (4) 委 託 先 県内の物販・卸業者  (5) 委託内容 企業オリジナル物産展等の管理・運営、オリジナル商品の提案・試作作成など</p>			内 訳	

事業名	アキタノ美味旅プロモーション事業			担 当	秋田うまいもの販売課 まるごと売込み班
事業年度	平成28～30	事業主体	県	当初予算額	11,405 千円
事業目的	県産食材や県産品の販路拡大等を図るため、クルーズ船の運営会社や国内外の観光客を対象にプロモーションを展開する。			財 源	一 般 11,405 千円
実施内容	<p>1 船会社等への県産食材の販路開拓 2,453千円  クルーズ船の運営会社を対象とした商談会を開催し、秋田の食や土産品等を売り込むほか、クルーズ船に乗船して秋田の食と観光をPRする。  (1) クルーズ船商談会  ①実 施 時 期 平成31年8月29日(木)  ②実 施 場 所 東京都千代田区 ホテルメトロポリタンエドモント  ③出展ブース数 県内食品事業者15ブース程度(観光振興課、港湾空港課と連携して開催し、全体では40ブース程度)  ④来 場 者 数 約100名(船会社、旅行会社等)  (2) クルーズ船乗船PR  ①実施時期 平成31年5～11月(MSCスプレンドィダ3回、ダイヤモンドプリンセス、にっぽん丸等6回程度)</p>			内 訳	

2	クルーズ船向けプレミアム商品のカタログ作成	2,489千円
	乗船記念向けの日本酒や稲庭うどん等のプレミアム商品を掲載したカタログを船内等で配布し、県産品の販売促進を図る。	
	(1) 作成部数 3万部(日本語のみ)	
	(2) 配布対象 内航クルーズ、MSCスプレンドィダ	
	(3) 掲載商品数 10商品程度	
3	秋田の食・お土産店のパンフレット作成	6,463千円
	きりたんぼ鍋や稲庭うどん等の秋田の食やお土産の店舗情報を掲載したパンフレットを作成し、国内外の観光客に配布する。	
	(1) 作成部数 3万部(日本語:2万部、英語:5千部、中国語:5千部)	
	(2) 配布先 クルーズ船、秋田空港、秋田駅、主要ホテルなど	
	(3) 掲載店舗数 50~80店舗程度	

事業名	「世界へ羽ばたけ!秋田の食」輸出・誘客促進事業		担当	秋田うまいもの販売課 調整・食品振興班		
事業年度	平成31~33	事業主体	県	当初予算額	20,997千円	
事業目的	県産品の輸出拡大やインバウンド誘客を図るため、民間事業者等と連携して、海外で食と観光を一体的に売り込むプロモーション等を展開する。			財源	一般	20,997千円
				内訳		
実施内容	1 輸出促進と観光PRのプラットフォーム in 台湾			9,700千円		
	台湾の百貨店で物産展の開催や観光PR等を行い、県産品の販路拡大やインバウンド誘客を図る。 (1) フード台北2019への出展(平成31年6月19日~22日)(2,143千円) フード台北のTECOグループ出展のブース内に出席し、県産品の輸出促進を図る。また、TECOグループの飲食店及び商流・物流機能をフル活用し、飲食店向け商材の成約を目指す。 ①出展者数 2~3社 ②委託先 株式会社あきた食彩プロデュース ③委託費 1,560千円 ④TECOグループ飲食チェーンとの個別商談(想定する対象店舗) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">モスバーガー261店舗、ロイヤルホスト14店舗、串家物語13店舗、高樂(日本食)5店舗、はむら(秋田牛導入の候補となった高級店)1店舗、餃子店4店舗、クロワッサン専門店5店舗、ドルチェヴィータ1店舗</div> (2) 輸出促進と観光PRのプラットフォーム(6,957千円) ①ABCクッキングスタジオを活用した県産品のPR及びレシピ提案を含む商談会の実施 ②台湾バイヤーの招聘 ③百貨店とタイアップした秋田物産展の開催(会場:台北市内の百貨店) ・委託先 公募(企画提案競技による選定) ・委託費 5,800千円 (3) 台湾ビジネスコーディネーターの活用(600千円) 現地での商談やマッチングを円滑に進め成約を高めるため「台湾ビジネスコーディネーター」を1名配置する。 ①委託先 桔想国際有限公司 網本友加氏 ②委託費 600千円 ③委託期間 平成31年4月~平成32年3月					
2 食の頂点パリ・ブランディング事業			7,010千円			
(1) 日本酒ブランディングPR(5,764千円)			現地のジャーナリスト等を招へいし、フランス国内での日本酒等の情報を発信。 ①委託先 共同企業体(北都銀行、ジャパンエクスキーズ) ②委託費 5,048千円 ③委託期間 平成31年4月~平成32年3月 ④参加人数 2名(ジャーナリスト・ソムリエ) ⑤実施時期 平成31年10月 ⑥対象メディア(予定) ワイン専門誌「LA REAVE VIN DE FRANCE」ほか 発行部数は5万部/月で、特徴:仏のソムリエとワイン愛好家が愛読しており、業界に対する影響力が大きい			
(2) 秋田フェアでの日本酒PR(1,246千円)			大手企業が現地に開設した日本食のアンテナショップでの秋田フェアや商談会の開催 ①委託先 共同企業体(ヤマトホールディングス、日本航空) ②委託費 621千円 ③実施時期 平成31年11月			

- ④会 場 日本の味（日本食アンテナショップ）  
 ⑤出展者数 2社程度（渡航費補助金 1/2以内、上限10万円、5件程度）

3 秋田の食プロモーション事業 i nタイ 2,981千円  
 経済成長が著しく、日本食の人気の高まっているタイにおいて、食のPRなどの県産食品のプロモーションを実施する。

- (1) 委託先 北都銀行  
 (2) 委託費 2,387千円  
 (3) 委託期間 平成31年4月～平成32年3月
- ①秋田アンテナレストランの設置と県産メニュー試食会（1,803千円）  
 現地の飲食店オーナーやシェフ等を招待し、県産食材等を使用した料理を提供するとともに、タイでの秋田の食の情報発信拠点とする。  
 ・実施時期 平成31年12月
- ②タイのバイヤー等招へい（1,016千円）  
 現地のインポーターや店舗オーナー、シェフなどを県内招へいし、現地商談を行うことにより、販路拡大を図る。  
 ・実施時期 平成31年7月（県産食材マッチング商談会のタイミングで実施）  
 ・招へい予定者 ダイショータイランド（日系大手輸入商社）など
- ③金融機関のバンコク駐在事務所を活用した県産品の販路開拓（162千円）  
 駐在事務所がこれまで培ってきたネットワークを活用し、現地での事前・事後の営業サポートを行う。  
 ・実施期間 通年

4 北東北三県・北海道ソウル事務所物産共同事業 1,306千円

- 県産品の販路開拓を図るため、四道県共同で物産の輸出を促進する。
- (1) 委託先 一般社団法人秋田県観光連盟  
 (2) 委託費 1,080千円  
 (3) 委託期間 平成31年4月～平成32年3月
- ①バイヤー招へい事業（571千円）  
 本県の食品事業者が韓国に進出する足がかりとするため、韓国からバイヤーを招へいし、個別商談、産地視察等を実施する。  
 ・実施時期 平成32年2月
- ②国際展示会（輸入商品展示会）への出展（624千円）  
 四道県合同で韓国の国際展示会にブース出展し、スケールメリットを活かして一体的にPRすることにより、より多くのバイヤーとの商談機会の創出を図るとともに、県産品に対する認知度向上を図る。  
 ・実施時期 平成31年6月27日～29日（3日間）  
 ・会 場 COEX H a l l  
 ・主 催 韓国輸入協会
- ③ビジネス開拓支援事業（111A-千円）  
 ソウル事務所が韓国企業向けにサンプル供与等を通じて商品紹介を行うほか、韓国におけるニーズ調査を行い、韓国市場進出を支援する。

事業名	あきた農商工応援ファンド造成事業		担 当	秋田うまいもの販売課 調整・食品振興班	
事業年度	平成31～41	事業主体	県	当初予算額	20,000 千円
事業目的	中小企業者と農林漁業者が経営の向上を図るため、両者が連携を強化し、相互の経営資源を活用して、新商品の開発や県外に販路を拡大する取り組みに対し支援する。		財	一般	20,000 千円
			源		
			内		
			訳		
実施内容	1 事業の概要				
	(独) 中小企業基盤整備機構からの20億円の無償貸付を活用して26.5億円の次期ファンドを創成し、その運用益6,625千円（想定：地方債・利率0.25%）で企業団体等を対象に県産農産物等を活用した商品開発や販路開拓を支援する。運用や事業管理等は、(公財) あきた企業活性化センターが担う。				
	2 ファンドの運営 (公財) あきた企業活性化センター				
	3 ファンドの構成				
		中小機構基盤整備機構	20.0億円	(従来ファンドと同額)	
		秋 田 県 (無利子貸付)	3.2億円	(従来ファンドより0.2億円の増額)	
		秋田銀行 (無利子貸付)	2.0億円	(従来ファンドより1億円の増額)	
		北都銀行 (無利子貸付)	1.0億円	(従来ファンドより0.7億円の増額)	
		J A全農あきた (寄託)	0.3億円	(従来ファンドと同額)	
		計	26.5億円		
	年間運用益	6,625千円			
	(10年共同発行市場公募地方債 (年利1.54%) ) での運用を想定				

4 事業内容

(1) 農商工連携支援事業

- ①助成対象者 中小企業者と農林漁業者との連携体など
- ②補助率 1/2・2/3以内(※)
- ③助成上限額 1,000千円(1年目)、500千円(2年目)
- ④年間採択数 4～5件

(2) 農商工連携応援団体支援事業

- ①助成対象者 中小企業者と農林漁業者との連携体を支援する企業団体など
- ②補助率 2/3・10/10以内(※)
- ③助成上限額 1,000千円(1年目)、500千円(2年目)
- ④年間採択数 1件

※ 以下の条件を満たす場合に適用

- ・開発商品の販路が確定している場合
- ・県の農業試験場で開発された品種等を原料の大半に活用したり、秋田県総合食品研究センターのオリジナル技術を活用した商品開発を行う場合

事業名	総合食品研究センター研究推進費 【地方創生推進交付金活用事業】		担当	総合食品研究センター 企画管理室
事業年度	平成31	事業主体	県	
事業目的	県産農水産物の有効利用と県内食品産業の振興のため、県内企業等の開発ニーズ等を踏まえて商品開発等を支援するための研究開発を行う。		財源内訳	当初予算額 43,150千円
実施内容	1 県産農林水産素材の品質を活かすための新加工技術の開発・応用 (継続) 700千円 (⊖ 700)		財源内訳	国庫 3,548千円
	(1) 概要 「美味しさ」と「保存性」を両立できる加工技術を開発し、さらにその利用拡大を図る		諸収入	31,802千円
	(2) K P I 新商品・技術移転5件以上、既存商品品質向上5件以上		一般	7,800千円
	(3) 実施期間 H29～31			
	2 米菓製造における加工技術の開発 (新規) 1,843千円 (⊕ 769 ⊖ 1,074)			
	(1) 概要 県内産米菓生地の利活用を拡大し、米加工分野、特に米菓製造を中心とする産業を活性化			
	(2) K P I レシピ等作成10アイテム→技術移転5件→事業化3件			
	(3) 実施期間 H31～33			
3 酒造工程の微生物を制御することによる日本酒の高品質化技術 (継続) 1,412千円 (⊕ 540 ⊖ 872)				
(1) 概要 微生物の混入による影響を明らかにし、製造場への情報提供を通じて日本酒の高品質化を図る				
(2) K P I 秋田県版HACCP取得5年以内に15製造場				
(3) 実施期間 H30～32				
4 次世代型あめこうじの開発と秋田米を活用した発酵食品への応用 (新規) 2,068千円 (⊕ 994 ⊖ 1,074)				
(1) 概要：あめこうじの高品質化と生産の効率化を図る				
(2) K P I：技術移転6件以上、あめこうじ製造認定取得6件以上増				
(3) 実施期間：H31～33				
5 蔵独自の住みつき酵母を利用した味噌などの発酵食品の開発 (新規) 913千円 (⊕ 405 ⊖ 508)				
(1) 概要 住みつき酵母を活用し、既存味噌のブラッシュアップや香りがより豊かな発酵型甘口味噌を開発				
(2) K P I 味噌7件以上、味噌加工品3件以上、調味料2件以上の商品化				
(3) 実施期間 H31～33				
6 いぶりがっこの効率的生産方法の確立と原料ダイコンの加工適性解明 (継続) 793千円 (⊖ 793)				
(1) 概要 いぶりがっこの効率的な生産方法を確立し、原料ダイコンの加工適性を解明				
(2) K P I いぶりがっこの10%増産				
(3) 実施期間 H30～32				
7 新規コメ発酵素材 (調味料) の開発・応用と機能性 (継続) 898千円 (⊕ 449 ⊖ 449)				
(1) 概要 旨味を発酵生産する微生物を取得し、コメ発酵旨味調味料を開発				
(2) K P I 技術移転5件以上				
(3) 実施期間 H30～32				
8 県産原料を活用した新規アルコール飲料等の開発と高品質化 (新規) 1,208千円 (⊕ 391 ⊖ 817)				
(1) 概要 県産原料と当センターの保有する技術を組み合わせ新規アルコール飲料を開発				
(2) K P I 米ウイスキー、県産果実ワイン、県産ジン各1社以上へ技術移転				
(3) 実施期間 H31～33				

9	“Enjoy! アクティブシニアライフ!!”をサポートする食の研究開発（新規） 1,513千円（⊖ 1,513）	
(1)	概要 運動器機能の向上効果を有する食品素材やシニアに不足しがちな栄養素を含んだ食品を開発	
(2)	K P I 県内農畜産物の高付加価値素材化3件、新商品開発5件以上	
(3)	実施期間 H31～33	
10	外部資金等を活用した受託・共同研究	31,802千円（⊕ 31,802）
(1)	食品事業者等との受託・共同研究	当初予定件数・金額 14件 16,270千円
	県内外の企業と相談し、総食研と共同研究契約を締結した上で研究を行う。	
(2)	外部資金活用研究	当初予定件数・金額 5件 15,532千円
	総食研として、国、財団、県などの研究助成制度に研究課題を応募する。採択された場合、研究費を諸収入として受け入れ、研究を行う。昨年不採択となった課題も見直して再応募する予定である。	

事業名	あきた発酵ツーリズム推進事業【地方創生推進交付金】		担 当	秋田うまいもの販売課 まるごと売込み班
事業年度	平成29～31	事業主体	県、発酵食品製造事業者	当初予算額 44,445 千円 (当課分 36,803千円)
事業目的	本県が誇る優れた発酵食文化を誘客コンテンツとして活用し、発酵食製造の見学や体験等が可能な施設を新たな観光拠点として位置づけ、それらを結んだ新たな観光周遊ルートの開発により、県内への入込者、宿泊者を増やし、交流人口の増加を図る。		財源内訳	国庫 14,247 千円 (当課分 14,247千円) 一般 30,198 千円
実施内容	1 あきた発酵ツーリズム推進事業（※下線部分が観光振興課部分）			14,816千円
	(1) あきた発酵ツーリズム確立推進事業			2,759千円
	①あきた発酵ツーリズム推進協議会の開催 旅行会社、鉄道会社、航空会社、関係事業者、学識経験者など23名（県関係4名含む） 年2回開催（5月、3月）			
	②あきた発酵ツーリズムのポスター・パンフレット作成 ロゴを活用したポスター5,000枚 拠点施設や周遊コースを紹介するパンフレット20,000部			
	(2) あきた発酵ツーリズムガイド研修事業			736千円
	・県内発酵関連事業所や観光協会職員等を対象としたガイド養成研修の実施			
	(3) あきた発酵ツーリズム首都圏イベント事業			3,679千円
	・あきた発酵ツーリズムイベントの開催による発酵食のPR及び県内誘客の推進 ・開催時期 10月 ・開催場所 東京都千代田区大手町（OOTEMORIの予定）			
	(4) <u>あきた発酵ツーリズム誘客促進事業（観光振興課分）</u>			7,642千円
	・発酵を学び、味わえる新たな旅行商品の開発 ・クルーズ船等の日帰りオプションツアーの売り込みとファムツアーの実施			
	2 あきた発酵ツーリズム拠点整備事業			29,629千円
	(1) 高質な受入環境整備促進事業			25,256千円
	・あきた発酵ツーリズムの推進拠点となる施設整備で、地域の観光施策と練度して、国内外から観光客を呼び込むプロジェクトを行う民間事業者への補助金 (地域経済循環創造事業交付金を活用)			
	・補助率：1/2以内 ・限度額等：25,000千円×1件 ・予定事業者：有限会社石孫本店			
	(2) 際立つコンテンツ創出支援事業			4,373千円
	・あきた発酵ツーリズムの推進拠点となる施設整備で、観光客の見学や製造体験等のために小規模な改修等を行う民間事業者への補助金 ・補助率：1/2以内 ・限度額等：2,000千円×2件 ・予定事業者：合名会社鈴木酒造店、くらを（合資会社羽場こうじ店）			

## 1 総合食品研究センター職員数

(平成31年4月1日現在)

場 所 名	総 数	内 訳		
		事 務	技 術	現 業
総合食品研究センター 企画管理室	11	4	7	0
総合食品研究センター 食品加工研究所	10	0	10	0
総合食品研究センター 醸造試験場	10	0	10	0
計	31	4	27	0

## 2 平成31年度 試験研究課題

課 題	期 間	予算区分
(政策研究)		
1 県産農林水産素材の品質を活かすための新加工技術の開発・応用	平29～31	県単
2 米菓製造における加工技術の開発	平31～33	国・県
3 酒造工程の微生物を制御することによる日本酒の高品質化技術	平30～32	国・県
4 次世代型あめこうじの開発と秋田米を活用した発酵食品への応用	平31～33	国・県
5 蔵独自の住みつき酵母を利用した味噌などの発酵食品の開発	平31～33	国・県
6 いぶりがっこの効率的生産方法の確立と原料ダイコンの加工適性解明	平30～32	県単
7 新規コメ発酵素材(調味料)の開発・応用と機能性	平30～32	国・県
8 県産原料を活用した新規アルコール飲料等の開発と高品質化	平31～33	国・県
9 “Enjoy! アクティブシニアライフ!!”をサポートする食の研究開発	平31～33	県単
(外部資金活用研究)		
10 脂質代謝研究素材として高脂質代謝機能と高利便性を備えるヒト肝細胞の開発 (中小企業庁・戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン))	平30～31	競争
11 アグリバイオ・スマート化学生産システムの開発 (内閣府・戦略的イノベーション創造プログラム(SIP))	平30～34	競争
12 秋田県の食品産業で輝く女性の連携とリーダー育成支援事業 (公益財団法人伊徳地域振興財団研究助成)	平31	競争